

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年8月10日

【四半期会計期間】 第72期第2四半期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社共和電業

【英訳名】 KYOWA ELECTRONIC INSTRUMENTS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 館野 稔

【本店の所在の場所】 東京都調布市調布ヶ丘3丁目5番地1

【電話番号】 042(488)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営管理本部長 五十嵐 卓哉

【最寄りの連絡場所】 東京都調布市調布ヶ丘3丁目5番地1

【電話番号】 042(488)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営管理本部長 五十嵐 卓哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第71期 第2四半期 連結累計期間	第72期 第2四半期 連結累計期間	第71期
会計期間		自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年1月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日
売上高	(千円)	7,643,581	8,141,871	15,350,765
経常利益	(千円)	655,793	816,107	1,405,184
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	432,040	580,477	952,795
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	547,525	486,653	1,597,423
純資産額	(千円)	14,492,380	15,781,281	15,574,746
総資産額	(千円)	22,457,475	23,030,588	23,278,827
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	15.50	20.72	34.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	62.8	68.2	66.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	849,203	1,616,481	945,999
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	230,848	172,453	385,355
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	400,894	573,047	653,062
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	5,532,774	6,106,034	5,227,067

回次		第71期 第2四半期 連結会計期間	第72期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	1.46	4.08

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の向上および雇用環境の改善を背景に、景気は引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。海外においても米国の保護主義的な貿易政策や一部欧州の政治動向等による不安感が募るものの、全般的に好調を持続しております。

計測機器業界におきましては、企業の設備投資が総じて増加傾向であり、計測機器需要も研究開発に関する市場も含めて、底堅さを維持しております。

このような事業環境のなか、当社グループは第5次中期経営計画として、「新たな事業領域への挑戦」「グローバルビジネスの拡大・充実・強化」「事業基盤の強化」を柱として各種施策に取り組んでまいりましたが、事業環境の変化に対応すべく中期経営計画の内容の見直しに着手し、今年度は成長軌道にのせ収益力の回復をはかることを目的とした重点施策に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における受注高は、高速道路向けETC対応車両重量計測システムの大型案件の成約等により、8,965百万円と前年同期に比べ17.2%の増加となりました。また売上高については、新ひずみゲージを始めとする汎用品が前年並みにとどまりましたが、特注品およびシステム製品が好調に推移し8,141百万円と前年同期に比べ6.5%の増収となりました。

利益につきましては、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高の増収および原価率の改善により、営業利益は790百万円と前年同期に比べ28.8%の増益となりました。また、経常利益は816百万円と前年同期に比べ24.4%、親会社株主に帰属する四半期純利益は580百万円と前年同期に比べ34.4%とそれぞれ増益となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

#### 計測機器セグメント

汎用品におけるセンサ関連機器は、新ひずみゲージおよび荷重計等が堅調に推移し、売上高は2,579百万円と前年同期に比べ0.6%の増収、測定器関連機器は、ひずみ測定器の需要一巡により売上高は1,034百万円と前年同期に比べ0.2%の減収となりました。

特注品関連機器(特定顧客向け仕様製品)は、高速道路向けETC対応車両重量計測システムの増加等により、売上高は1,680百万円と前年同期に比べ11.4%の増収となりました。

システム製品関連機器は、自動車安全分野における衝突試験装置並びにその関連機器、ダム安全性を観測する堤体観測装置等の更新需要増加等により、売上高は962百万円と前年同期に比べ8.4%の増収となりました。

保守・修理部門は、保守・点検業務および機器修理が堅調に推移し、売上高は536百万円と前年同期に比べ1.2%の増収となりました。

以上その他を含め、計測機器セグメントは、売上高が7,573百万円と前年同期に比べ6.2%の増収となりました。また、セグメント利益(売上総利益)は2,786百万円と前年同期に比べ7.1%の増益となりました。

#### コンサルティングセグメント

コンサルティングセグメントは、各種計測業務が堅調に推移し、売上高は568百万円と前年同期に比べ11.2%の増収となりました。また、セグメント利益(売上総利益)は246百万円と前年同期に比べ36.2%の増益となりました。

## (2)財政状態の分析

### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は23,030百万円となり、前連結会計年度末に比べ248百万円の減少となりました。

流動資産は15,857百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金が853百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が542百万円、たな卸資産が402百万円それぞれ減少したことによるものであります。

固定資産は7,172百万円となり、前連結会計年度末に比べ143百万円の減少となりました。その主な要因は、有形固定資産が57百万円、投資有価証券が85百万円それぞれ減少したことによるものであります。

### (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は7,249百万円となり、前連結会計年度末に比べ454百万円の減少となりました。

流動負債は5,262百万円となり、前連結会計年度末に比べ59百万円の減少となりました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が188百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が267百万円減少したことによるものであります。

固定負債は1,987百万円となり、前連結会計年度末に比べ395百万円の減少となりました。その主な要因は、長期借入金が371百万円減少したことによるものであります。

### (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は15,781百万円となり、前連結会計年度末に比べ206百万円の増加となりました。その主な要因は、利益剰余金が配当に伴う減少280百万円と親会社株主に帰属する四半期純利益の増加580百万円による差引き等で300百万円増加した一方、その他有価証券評価差額金が59百万円減少したことによるものであります。

## (3)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ878百万円増加し、6,106百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前四半期純利益816百万円、減価償却費306百万円、売上債権の減少534百万円、たな卸資産の減少400百万円等の資金流入に対し、仕入債務の減少259百万円、法人税等の支払248百万円等の資金流出があり、全体では1,616百万円の資金流入（前年同四半期は849百万円の資金流入）となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、有形固定資産の取得156百万円、無形固定資産の取得41百万円等の資金流出があり、全体では172百万円の資金流出（前年同四半期は230百万円の資金流出）となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、長期借入金の返済183百万円、配当金の支払278百万円等により、全体では573百万円の資金流出（前年同四半期は400百万円の資金流出）となりました。

## (4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5)研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は484百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,570,000
計	99,570,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,058,800	28,058,800	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	28,058,800	28,058,800		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日		28,058,800		1,723,992		1,759,161

(6) 【大株主の状況】

平成30年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	2,575	9.17
共和電業従業員持株会	東京都調布市調布ヶ丘3-5-1	2,008	7.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,530	5.45
共和協栄会	東京都調布市調布ヶ丘3-5-1	1,274	4.54
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	1,029	3.66
株式会社ニッカトー	大阪府堺市堺区遠里小野町3-2-24	814	2.90
株式会社チノー	東京都板橋区熊野町32-8	711	2.53
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町2-2-2	650	2.31
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	550	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	442	1.57
計		11,585	41.29

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,575千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,530千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	442千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 47,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,999,900	279,999	
単元未満株式	普通株式 11,200		
発行済株式総数	28,058,800		
総株主の議決権		279,999	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式6株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社共和電業	東京都調布市調布ヶ丘 3 - 5 - 1	47,700		47,700	0.17
計		47,700		47,700	0.17

(注) 平成30年6月30日現在の自己株式数は、47,706株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年1月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日付をもって、EY新日本有限責任監査法人に名称を変更しております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,612,067	6,466,034
受取手形及び売掛金	1 5,822,383	1 5,280,059
商品及び製品	1,254,815	1,247,789
仕掛品	1,313,456	950,609
未成工事支出金	32,794	58,366
原材料及び貯蔵品	1,555,760	1,497,990
その他	375,170	358,110
貸倒引当金	3,885	1,368
<b>流動資産合計</b>	<b>15,962,561</b>	<b>15,857,590</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	2,747,262	2,659,351
その他（純額）	2,208,509	2,239,028
<b>有形固定資産合計</b>	<b>4,955,771</b>	<b>4,898,379</b>
<b>無形固定資産</b>		
	134,787	135,118
<b>投資その他の資産</b>		
その他	2,231,451	2,143,938
貸倒引当金	5,744	4,438
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>2,225,706</b>	<b>2,139,499</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>7,316,266</b>	<b>7,172,997</b>
<b>資産合計</b>	<b>23,278,827</b>	<b>23,030,588</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,588,462	1,321,444
短期借入金	1,450,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	303,717	492,000
未払法人税等	228,437	203,008
賞与引当金	189,031	224,220
役員賞与引当金	19,400	18,285
その他	1,542,584	1,653,304
<b>流動負債合計</b>	<b>5,321,633</b>	<b>5,262,262</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	942,800	570,900
退職給付に係る負債	1,245,877	1,170,475
執行役員退職慰労引当金	10,740	14,368
役員退職慰労引当金	78,441	90,436
資産除去債務	12,896	13,024
その他	91,691	127,838
<b>固定負債合計</b>	<b>2,382,447</b>	<b>1,987,044</b>
<b>負債合計</b>	<b>7,704,080</b>	<b>7,249,306</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,723,992	1,723,992
資本剰余金	1,854,080	1,854,080
利益剰余金	10,693,296	10,993,662
自己株式	14,209	14,216
株主資本合計	14,257,159	14,557,519
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	884,515	825,345
為替換算調整勘定	60,534	58,650
退職給付に係る調整累計額	296,138	272,849
その他の包括利益累計額合計	1,241,188	1,156,844
非支配株主持分	76,398	66,917
純資産合計	15,574,746	15,781,281
負債純資産合計	23,278,827	23,030,588

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	7,643,581	8,141,871
売上原価	4,860,691	5,109,335
売上総利益	2,782,889	3,032,535
販売費及び一般管理費	1 2,169,099	1 2,241,729
営業利益	613,790	790,805
営業外収益		
受取利息	4,931	5,321
受取配当金	27,809	26,208
補助金収入	15,306	20,022
その他	18,491	22,343
営業外収益合計	66,538	73,896
営業外費用		
支払利息	10,088	8,963
為替差損	6,009	18,984
コミットメントフィー	3,944	12,259
その他	4,493	8,385
営業外費用合計	24,535	48,594
経常利益	655,793	816,107
特別利益		
負ののれん発生益	30,925	-
特別利益合計	30,925	-
特別損失		
関係会社株式評価損	18,697	-
その他	4	-
特別損失合計	18,701	-
税金等調整前四半期純利益	668,017	816,107
法人税、住民税及び事業税	165,163	215,508
法人税等調整額	66,871	42,559
法人税等合計	232,034	258,067
四半期純利益	435,982	558,039
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	3,942	22,438
親会社株主に帰属する四半期純利益	432,040	580,477

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	435,982	558,039
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	128,340	59,170
為替換算調整勘定	9,192	11,072
退職給付に係る調整額	7,605	23,288
その他の包括利益合計	111,542	71,386
四半期包括利益	547,525	486,653
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	542,355	496,134
非支配株主に係る四半期包括利益	5,169	9,481

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	668,017	816,107
減価償却費	346,561	306,639
負ののれん発生益	30,925	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	226	3,822
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	85,013	101,860
賞与引当金の増減額(は減少)	30,861	35,189
役員賞与引当金の増減額(は減少)	11,325	1,115
執行役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3,130	3,628
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	43,452	11,994
受取利息及び受取配当金	32,740	31,530
支払利息	10,088	8,963
関係会社株式評価損	18,697	-
売上債権の増減額(は増加)	417,030	534,066
たな卸資産の増減額(は増加)	134,684	400,099
仕入債務の増減額(は減少)	17,243	259,649
その他	47,683	123,156
小計	1,125,579	1,841,867
利息及び配当金の受取額	32,698	31,748
利息の支払額	10,148	9,031
法人税等の支払額	298,925	248,102
営業活動によるキャッシュ・フロー	849,203	1,616,481
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(は増加)	1,676	25,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	51,860	-
有形固定資産の取得による支出	278,029	156,047
無形固定資産の取得による支出	11,236	41,247
その他	4,880	158
投資活動によるキャッシュ・フロー	230,848	172,453
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	100,000
長期借入金の返済による支出	158,391	183,617
自己株式の処分による収入	49,819	-
配当金の支払額	278,281	278,812
その他	14,042	10,618
財務活動によるキャッシュ・フロー	400,894	573,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,852	7,986
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	201,607	878,966
現金及び現金同等物の期首残高	5,331,167	5,227,067
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 5,532,774	1 6,106,034

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
受取手形	163,687千円	118,435千円
電子記録債権	4,598	15,163

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
給与手当	684,500千円	711,802千円
賞与引当金繰入額	79,751 "	79,146 "
役員賞与引当金繰入額	17,725 "	18,285 "
退職給付費用	41,265 "	38,701 "
役員退職慰労引当金繰入額	16,030 "	12,714 "
執行役員退職慰労引当金繰入額	3,130 "	3,628 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
現金及び預金	5,517,774千円	6,466,034千円
預入期間が3か月を超える定期預金	385,000	360,000
有価証券勘定に含まれる譲渡性預金	400,000	
現金及び現金同等物	5,532,774	6,106,034

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	280,111	10	平成28年12月31日	平成29年3月31日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金1,746千円を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	280,111	10	平成29年12月31日	平成30年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	計測機器	コンサル ティング	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,132,377	511,203	7,643,581		7,643,581
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	7,132,377	511,203	7,643,581		7,643,581
セグメント利益	2,601,900	180,989	2,782,889		2,782,889

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の売上総利益の金額と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

「計測機器」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にタマヤ計測システム株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれんの発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては30,925千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	計測機器	コンサル ティング	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,573,505	568,365	8,141,871		8,141,871
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	7,573,505	568,365	8,141,871		8,141,871
セグメント利益	2,786,093	246,442	3,032,535		3,032,535

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の売上総利益の金額と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。なお、「普通株式の期中平均株式数」は、株式給付信託口が所有する当社株式を自己株式数に含めて算定しております。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	15.50円	20.72円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	432,040	580,477
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	432,040	580,477
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,880	28,011

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年8月10日

株式会社共和電業  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野 本 博 之 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯 畑 史 朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社共和電業の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年1月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社共和電業及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。